
編集後記

今回も、皆様のご協力により日本透析医会雑誌 22 巻 2 号を発刊することができた。広報委員の一人として関係各位の労苦に心よりお礼申し上げます。本号では、毎号お馴染みの項目に加えて、「透析医療における Consensus Conference 2006」, 「透析医療における Current Topics 2007」, さらに「総会資料と決定事項」が掲載されている。いずれも興味深い内容であり、会員諸氏におかれては、一読賜れば幸甚に存ずる。

「Consensus Conference 2006」では、日本透析医学会が提唱した二次性副甲状腺機能亢進症の治療ガイドラインのポイントとして、血清リン濃度の管理を最優先すべきであることが記述されている。「透析医療における Current Topics 2007」では、透析医療における諸問題について詳細に記述されており、明日からの日常診療に役立つ内容と思われる。「医療安全対策」では、透析患者における身近な感染症についてそれぞれの分野の専門家に寄稿をお願いした所、力作を頂戴することができ、執筆者の先生方には改めて深謝申し上げます。「臨床と研究」では、腎臓病に対するゲノム創薬の現況、慢性腎臓病（CKD）対策の必要性、四肢機能低下の病態について記述されている。ご存知のように、CKD 対策の重要性は、透析導入患者が増加の一途を辿っていることに加えて CKD では心・脳血管障害発症リスクがきわめて高いことがあげられる。現在、全国各地で CKD 対策講演会が開催されており、会員諸氏の積極的参加が望まれる。加えて、この項では、長年にわたって透析医療をリードして来られた前田貞亮先生に鉄代謝に関するお考えを述べて頂いた。参考になれば願っている。「総会資料と決定事項」では、専務理事の杉崎弘章先生に詳細を記述して頂いた。「各支部での特別講演」については、平成 19 年度助成分から演者の負担を軽減する目的で抄録のみの掲載とすることが常任理事会で決定された。今号は平成 18 年度分の掲載との境目となり、フルペーパーを寄稿して頂いた先生方には申し訳なく思っている。ご理解の上、ご容赦賜りたい。「公募助成論文」は 2 編掲載されており、糖尿病性腎症患者を透析導入から回避するには血糖の管理が重要であることが改めて明らかにされている。他編は、透析液清浄化対策への取り組み方法に関する研究報告であり、臨床工学技士の諸兄にも参考になるものと思われる。「透析医のひとりごと」, 「たより」では医療制度上の問題点、防災活動に対する意気込みなどがひしひしと伝わってくる。

透析医療は種々の面で正念場に差し掛かっている。後継者不足もその一つであり、職務柄、学生ならびに医師教育に携わっている人間として責務の大きさを痛感している昨今である。「透析医療に夢を」をキャッチフレーズに後継者育成に励むことを約束し、編集後記の稿を終える。

広報委員 頼岡徳在